



第5回インターアメリカン リーダーシップ トレーニング派遣 報告書

平成29年12月28日～平成30年1月3日

日本代表団
木村直登 千田恵

1. イントロダクション

1.1 はじめに

インターアメリカ地域では2013年からリーダーシップトレーニング(ILT)を行っており、今回が5回目の開催となる。昨年度まではインターアメリカ地域のスカウトのみを対象としていたが、今回初めて他地域からのスカウトの参加も受け付ける運びとなった。結果、今回のILTは過去最大のものとなり、49カ国からの参加者がエクアドルに集った。

日本からは、元世界スカウト委員の中野まりさんのご紹介により、2名のローバースカウトが派遣された。日本やAPR地域ではこのようなリーダーシップトレーニングコースは設けられていないものの、インターアメリカ地域では国レベルでのこうしたトレーニングも一般的なものであるようだ。また、このトレーニングはWOSMのMessengers of Peace(MoP)とのつながりが深く、MoPの導入が遅れている日本にとって有益な情報が多かった。今回のILTの内容をそのまま日本で行うことは難しいかもしれないが、当報告書が日本のローバースカウト教育の発展と日本のMoP周知に寄与することを望むばかりである。

1.2 要旨

派遣に関する基本情報	
名称	第5回 Interamerican Leadership Training (ILT)
主催	インターアメリカ地域
期間	平成29年12月28日(木)~平成30年1月3日(水) 7日間
場所	エクアドル キト
派遣目的	リーダーシップとMoPについての理解を深める
目標	①リーダーシップトレーニングのような事業を日本のローバー対象に行う必要性を検討する ②日本におけるMoP周知および浸透のための方策を検討する
規模	参加者：80名 参加NSO：49
ILTの主な内容	①LeadershipとTeam Buildingを主軸に据えたトレーニング ②Messengers of Peaceのチームプロジェクトの立案

1.3 目次

1. イントロダクション	
1.1 はじめに.....	2
1.2 要旨	2
1.3 目次	3
2. 派遣基本情報	
2.1 派遣情報.....	4
2.2 エクアドルについて.....	4
2.3 派遣員紹介	6
3. 派遣前の動きについて	
3.1 事前準備.....	6
3.2 派遣団の目的・目標・方針.....	7
4. 第5回インターアメリカンリーダーシップトレーニング派遣	
4.1 派遣日程.....	8
4.2 全体討議と各分科会の概要.....	10
4.3 トレーニング中のその他の事項について.....	28
5. 帰国後の動きについて	
5.1 派遣団の目的・目標に対する評価.....	30
5.2 派遣団としての評価・反省一般.....	31
5.3 派遣員所感.....	32
6. 総括	
6.1 おわりに.....	34
6.2 記録写真.....	35
6.3 参考.....	36



2. 派遣基本情報

2.1 派遣情報

名称 第5回インターンアメリカン・リーダーシップ・トレーニング
The 5th Interamerian Leadership Training (ILT)

期間 平成29年12月28日（木）～平成30年1月3日（水） 8日間

場所 エクアドル キト、campamento nueva vida quito(キャンプ場)

参加NSO 49カ国

参加者数 80人

スタッフ 31名

2.2 エクアドルについて

公用語：スペイン語

首都：キト

面積：283,560km² (> 227,977km² 本州、日本)

人口：13,625,000人

通貨：USドル

宗教：カトリック



国名であるエクアドルは、この国を通る赤道（スペイン語でEcuador terrestre)に由来する。しかしながら赤道直下ではあるものの標高が高いため、首都のキトなどは涼しい気候である。最大の都市は南部のグアヤキルであり、こちらはキトよりも標高が低く、温暖な気候となっている。

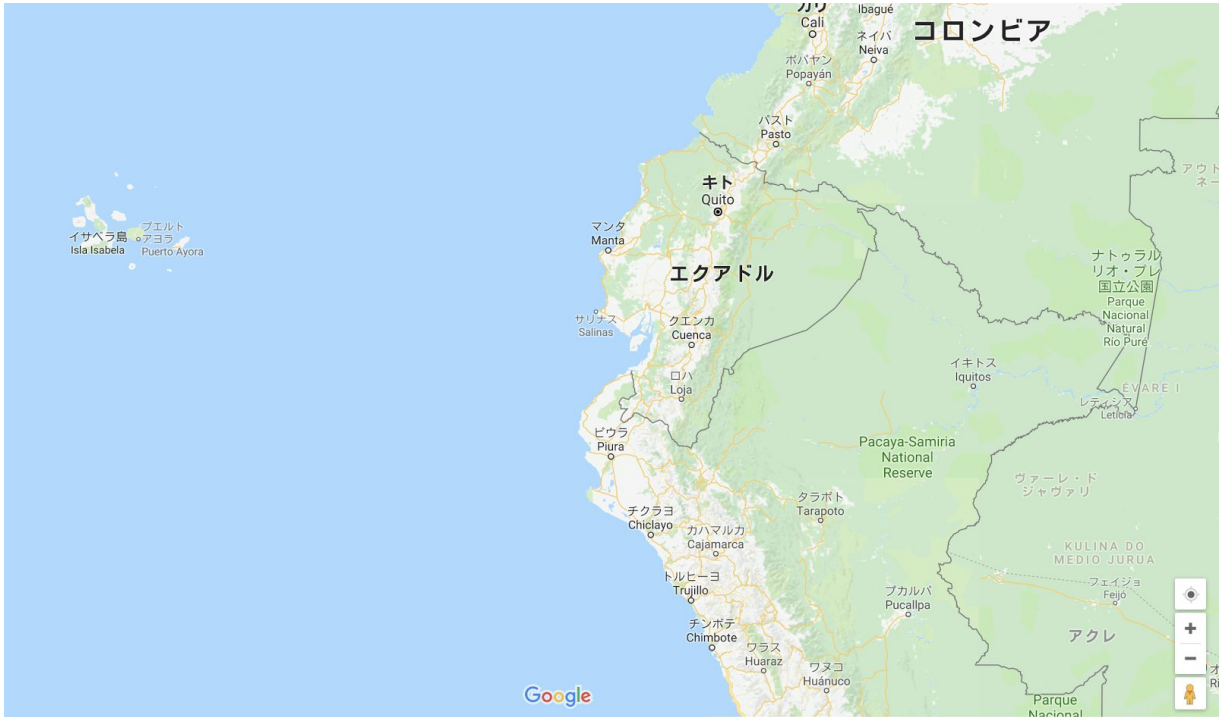


図 1 : エクアドル地図

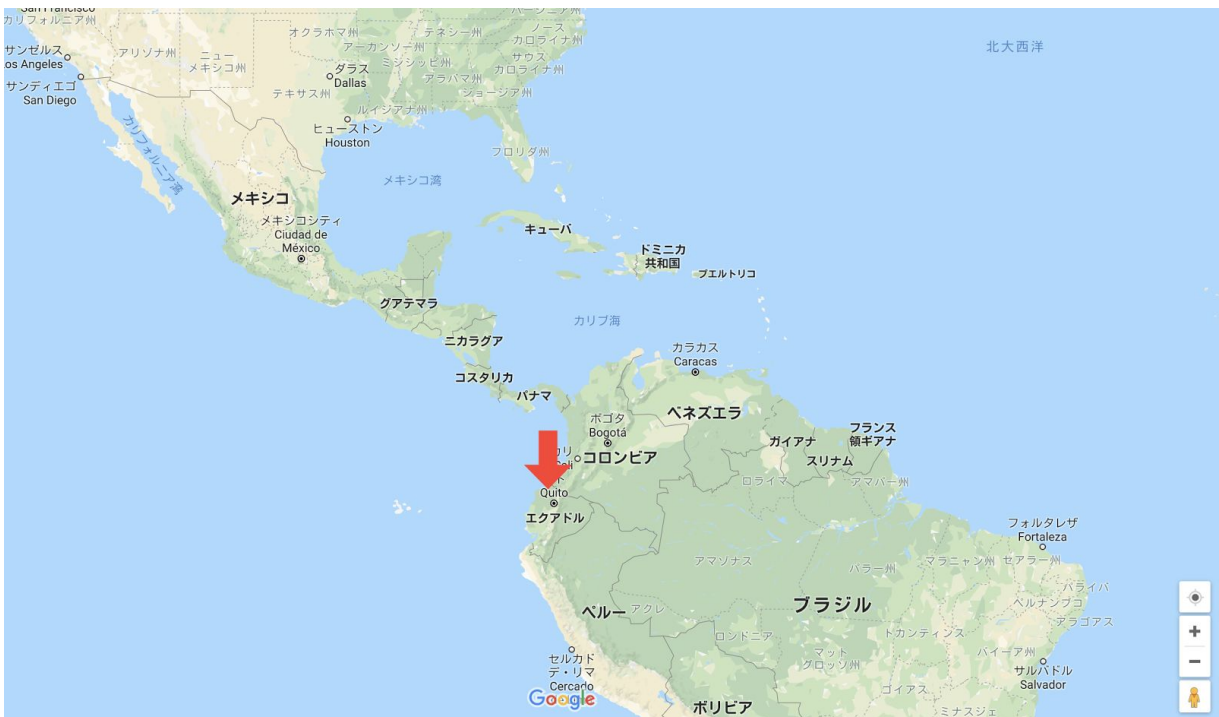


図 2 : エクアドルの位置

2.3 派遣員紹介

	<p>木村 直登 (Naoto KIMURA)</p> <p>東京連盟 昭島第1団ローバースカウト隊 平成29年度全国ローバースカウト会議 副議長</p>
	<p>千田 恵 (Megumi CHIDA)</p> <p>岩手連盟 釜石第2団ローバースカウト隊 平成29年度全国ローバースカウト会議 運営委員</p>

3. 派遣前の動きについて

3.1 事前準備

- ・ 派遣情報入手 11月26日 教育推進会議。RCJ議長に元世界スカウト委員の中野まりさんからお声がけ頂いた
- ・ 任命式
 - 日時：12月24日
 - 場所：ボーイスカウト会館

3.2 派遣団の目的・目標・方針

私たちは日本代表派遣団として目的・目標・方針を以下のように定めた。

-目的-

リーダーシップとMoPについての理解を深める。

-目標-

1. リーダーシップトレーニングのような事業を日本のローバー対象に行う必要性を検討する。
2. 日本におけるMoP周知および浸透のための方策を検討する。

-方針-

1. 世界レベルでのスカウティングや他国での情報を収集し、可能な限り多くの情報を持ち帰る。
2. 収集した情報を基に、日本国内において有効に活用できそうなものを取りまとめる。
3. 派遣で得た情報・知見を幅広く発信する。



4. 第5回インターアメリカンリーダーシップトレーニング派遣

4.1 派遣日程

日付	内容
12/25	運営側が手配したフライトにて出発。午前中に日本を出国し、ニューヨーク・マイアミ経由で夜にキトに到着。
12/26 12/27	フリータイム。キトにて時間を潰した。
12/28	午後：到着、受付、参加者写真撮影 オリエンテーション コース・オーバービュー、開会式
12/29	午前：WOSMイントロダクション、グループワーク「有効なコミュニケーションとは」
	午後：グループワーク「他者へのより深い理解のために」 プレゼン「SDGs」 グループワーク「問題解決法」（アウトドア・アクティビティ） 分科会「Virtual Leadership」「Visioning」 「Servant Leadership」、プレゼン「MoP」
12/30	-Local Day- 午前：植樹 Middle of the World に向けて出発。バスにて移動
	午後：Middle of the Worldに到着。チーム毎に行動。写真撮影。 バスにて帰還。プレゼン「チームワーク」 マシュマロチャレンジ
12/31	午前：MoP team Project Work Time プレゼン「the Goblet of Ecuador Trials」 プレゼン「Emotional Intelligence」、「Rovers 100」、 「Bike Jamboree」、「ILTの歴史」
	午後：分科会「Ethical Decision」、「Meeting Management」、 「Biases and Effect」 フォーラム「Governance and Leadership」 フォーラム「Communication」、IAR Line up

	インターナショナル・ナイト
1/1	午前：分科会「Setting the Example」、「Feedback」 「Individual vs Team Decision」 プレゼン「MoPプロジェクト例（コロンビア）」 プレゼン「Conflict Management and Resolution」
	午後：ゲストスピーカー「Youth Capacity Platform」、 「Interamerican Scout Foundation」、「Interamerican Youth Forum」 プレゼン「Multiplier Concept」「世代を超えた理解」 フォーラム「Educational Method」、キャンプファイア
1/2	午前：プレゼン「Values of Scouting」、写真撮影 プレゼン「Diversity and Inclusion」
	午後：MoPチームプロジェクトのプレゼンテーション プレゼン「Scout Donation Platform」 フォーラム「Youth Involvement」 コース・サマリー、感謝状授与式 キャンプ場発、空港へ (フライトの時間の関係で日本派遣団は閉会式に出席できなかった)
1/3	未明にエクアドルを出国。マイアミ、ニューヨーク経由でのフライト。
1/4	夕方に日本に帰国 解散



4.2 全体討議と各分科会の概要

-12月28日-

・オリエンテーション、コースオーバービュー

ILTの目的、参加者の心構えなどが説明された。

・開会式

ホールに全参加者とスタッフが集い、行われた。ホールには各国の国旗が掲げられた。各チームの色やチームリーダーの紹介がされたり、歌を歌ったりとチーム内や他の参加者と交流を深められた。

-12月29日-

・WOSMイントロダクション

WOSMIに関する基本情報の紹介と共に、Vision 2023やBetter World Frameworkなどが紹介された。

○Vision 2023とは

Vision 2023は2014年にスロベニアでの世界会議にて承認された、WOSMの2023に向けた目標である。具体的には1つのミッション、1つのビジョン、そして6つの戦略に基づいた目標となっている。

参考動画：<https://www.youtube.com/watch?v=RSTmgz1BCAs>

参考資料：<https://www.scout.org/node/50232>

-ミッション-

The Mission of Scouting is to contribute to the education of young people, through a value system based on the Scout Promise and Law, to help build a better world where people are self-fulfilled as individuals and play a constructive role in society

スカウティングのミッションは、社会において個々人が建設的な役割を担える市民として成熟しているより良き社会を築き上げるために、スカウトのちかいとおきてに基づいた価値あるシステムを通じて青少年の教育に貢献することである。

-ビジョン-

By 2023 Scouting will be the world's leading educational youth movement, enabling 100 million young people to be active citizens creating positive change in their communities and in the world based on shared values

2023年までにスカウティングは1億人の若者を、共有された価値に基づいて彼らの所属するコミュニティーで良き変化を与えられる”Active Citizen”に育てあげ、世界における先駆的
教育運動となることを目指す。

-6つの戦略-

これらの戦略は世界レベルのみならず、国レベル、隊レベルという異なる全てのレベルで行われるスカウト運動全体として試行される戦略である。スカウト運動としてこれらの戦略に基づいてビジョンの達成を目指していくこととなる。これら6つの戦略は”Innovating Scouting”、”Reaching Out To All”、”Governance & NSO Support”、そして”Strengthening Scouting’s Profile”という4つの分野に別れて促進される。



- ・ Youth Engagement (ユースの関与)
- ・ Educational Method (教育法)
- ・ Diversity & Inclusion (多様性の包括)
- ・ Social Impact (社会へのインパクト)
- ・ Communications & Relations (コミュニケーションと関係性)
- ・ Governance (組織運用)

このビジョンの達成のため、WOSMでは三ヶ年ごとに進捗報告及び計画の練り直しを行なっている。



○Better World Framework

WOSMが提供しているプログラムの背景、どのようなプログラムなのか、どのようにすれば参加できるのかなどのプレゼンテーションを受けた。

①スカウティングにおける青少年プログラムの定義

- ・若者の役に立つことができるもの(What)
- ・スカウティングの目的を達成するために作られたもの(Why)
- ・スカウト教育法を通して経験された学習機会(How)
の総体である。

②若者+スカウト教育=Active Citizen

③Better World Frameworkの目的

- ・スカウトが社会的影響を発揮するのを助ける。
- ・スカウト、スカウト関係者以外の人々を刺激するために、成功の話を分かち合うように奨励する。
- ・Active citizenになるためには、多くの側面の1つを強化する。
- ・青少年プログラムと連携した集団的かつ総合的な取り組み。
- ・地球規模の影響をもたらすための地域行動を促す。
- ・スカウトの共通の取り組みに参加するコミュニティメンバーを組み込む。

④Better World Frameworkとは？

一般的な目的×(スカウト+地域の関係者)=Better World Framework

⑤プログラム

以下の3つの分野に分けられている。



WOSM WORLD PROGRAMMES(WOSMの世界プログラム)

☆SCOUTS OF THE WORLD AWARD

ボーイスカウト日本連盟では導入されていないプログラムである。スカウトやスカウト以外のすべての若者に地球規模の問題を考え、地域社会で行動する挑戦のことで、によって世界スカウティングによって提供された若者のための唯一の章。この章には、地域社会をより良いものにするための献身が必要。完了すると、行動を起こすために他人にインスピレーションを与えるネットワークの一部になる。



以下はこのプロジェクト内で外部団体と連携しているものの例である。



☆Messengers of Peace(メッセンジャー・オブ・ピース)

ボーイスカウト日本連盟でも導入されているプログラムである。

https://www.scout.or.jp/for_members/program/messengers_of_peace/index.html

以下はこのプロジェクト内で外部団体と連携しているものの例である。



Messengers of Peace Partners



☆World Scouting Environment Programme(世界スカウト環境プログラム)

ボーイスカウト日本連盟でも導入されているプログラムである。

https://www.scout.or.jp/for_members/program/WSEP/index.html

以下はこのプロジェクト内で外部団体と連携しているものの例である。



・グループワーク「有効なコミュニケーションとは」

グループ内には言語のようなコミュニケーションバリアが存在しており、それらを克服するためにはどのようにすれば良いかを疑似体験した。グループにはお題として絵（様々な図形が点在）が配布され、それを絵を見ていない第三者に口頭の説明のみで書かせるゲームを行った。

結論として、コミュニケーションは他者を受けるためのツールであると共に、重要な問題解決法であることが確認された。また、有効なコミュニケーションを行うためにはActive Listening（質問を投げかけることで具体的に、かつ主体的に聞くこと）と分かりやすさ（明確さ、端的さなど）が重要であるとのことであった。

・グループワーク「他者へのより深い理解のために」

今までに自分が話したことのない参加者を探し、その参加者との対話を通して他者への理解を深めるセッションである。スカウティングを始めたきっかけなどのスカウト関連の事項のみならず、最近泣いたのはいつだったかなどの質問がお題として出され、お題に沿った対話を行うことで他者への理解を深めていった。

・プレゼン「SDGsについて」

持続可能な開発目標（SDGs）（PDF）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標である。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っている。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、スカウティングとしても積極的に取り組んでいる。

http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/



・グループワーク「問題解決法」

チームで協力して問題解決に取り組むためのアクティビティとして4つのゲームに挑戦した。ゲーム後にはチーム内の連携の様子やリーダーシップについて反省した。

1.「水」

手で容器に触れずにペットボトルの水を他の容器に移し替えるゲーム。使っているのは麻紐とゴムのみで、水を移し替える際には水から1m以上離れなければならない。



2.「卵」

紙コップの中に卵を閉じ込め、制限時間内で可能な限り強靱なプロテクションを施す。制限時間後、それをコンクリートに投げつけ、卵が無事かどうかを試すゲーム。ほとんどのチームは卵を割ってしまったようだが、中には卵を無傷で守ったチームもあった。

3.「魔獣」

チーム員で協力し、お題の魔獣を表現しながらリレーするゲーム。例えば、「足が5つ、手が2つ、目が4つ」などのお題に沿って、チーム員3人でこれを表現する。

4.「亀」

ドボン探しゲームである。マス目のある床がフィールドとなっており、スタート地点から一歩ずつ歩みを進めてゴールを目指す。目には見えない正規ルートを通らない限りはドボンとなり、スタートからやり直しとなる。一人ずつ交代しながらスタートし、記憶を頼りにドボンを回避してゴールを目指すゲームである。

・分科会 (Conference)

分科会では参加者各々が興味のあるトピックを3つの中から2つを選択する。

○Virtual Leadership

デジタル時代におけるリーダーシップを考える分科会。デジタルツールを用いればチームの生産性を向上させることができる可能性がある一方で、対面したことのないチームメイトのコミュニケーションが難しいなどのデメリットもあり、長所短所それぞれを理解した上でツールを使うことが大切だとされた。これらを踏まえ、ツールを使用する際のルールをグループで決めておくデメリットの克服に役立つとのことであった。さらには対面をしたことのないチームメイトのコミュニケーション促進のためのツールの例としてオンラインゲームが紹介されていた。

○Visioning

vision（目標、方向性、ビジョン）について考える分科会。導入として3人1組でモンスターの頭部・胴体・足をリレー式に描くアクティビティを行い、共通の目標無しには、一つのを完成させるのは困難ということを体験した。visionとは個人またはグループが一定の期間に達成すべきとする共通のもの、という定義を学んだ。さらに個人またはグループ、長期または短期など、様々なレベルでのvisionの設定が必要であると説明を受けた。最後にvisionには、time（時間）・challenge（課題）・possible（可能性）・specific（具体性）の4要素が不可欠だとまとめられた。

○Servant Leadership

リーダーは体を駆使してリーダーシップを発揮するとして、体の部位ごとに考えられるリーダーシップとの関連性を考えた。具体的には体を頭、胴体、手、足の4つに区分し、グループごとにそれぞれの部位とのリーダーシップの関係性を考えた。例えば「足」のグループであれば、リーダーは活発に動くために足が動く、というようなものである。

※Servant Leadershipはローバート・K・グリーンリーフ氏が提唱するリーダーシップ論で、著書「The Servant as Leader」の中で述べられているものである。帰路で立ち寄ったJohn F Kennedy空港でもServant Leadershipの著作がベストセラーとなっていたため、アメリカ国内で非常にホットなリーダーシップ論とも言えよう。一般的に、背後からのリーダーシップ（自分が引っ張るのではなく、部下が前に進むのを後ろからバックアップするタイプ。すなわち、フォロワーに尽くすリーダータイプ。）とされるが、このセッションではそのような意味合いでのリーダーシップは取り扱われなかった。

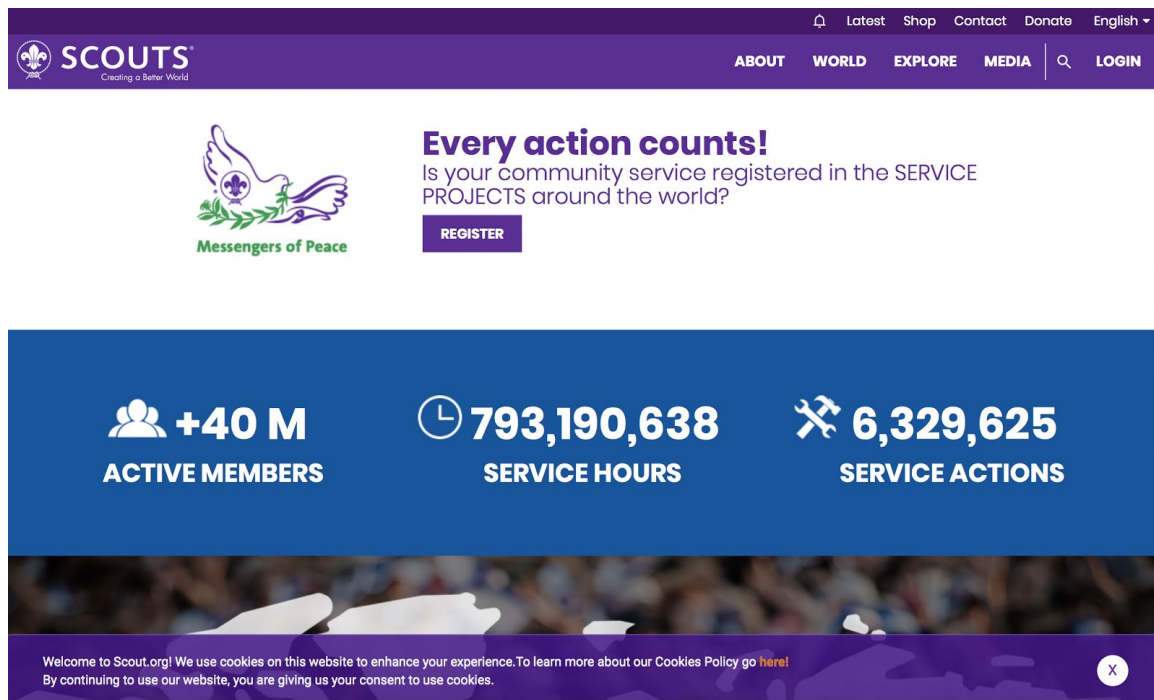


・プレゼン「Messengers of Peace」

2011年に始まったWOSMのMessengers of Peace(MoP)に関する導入のプレゼンテーション。名称に平和という文字があるが故に、紛争地域などでの取り組みなどがイメージされがちだが、日本でも十分に取り組み可能であり、我々の活動でいう奉仕などもMessengers of Peaceのプロジェクトに当てはまる。MoPのプロジェクトの定義としては、「コミュニティにおいてポジティブな変化をもたらす全てのスカウトプロジェクト」とされており、その事例も多岐にわたる。例えば、自然エネルギーを大切にす啓発のためのエコプロジェクト（水道の蛇口はこまめに閉める、必要のないときは電気を消すなど）もMoPの対象となる。なお、定義上はスカウトプロジェクトとされているが故にスカウト関係者しか参画できないようなイメージが抱かれがちであるが、スカウト関係者以外も参画可能である。また、WOSMにはMoPのためのファンドも存在しており、資金不足の際でもファンドに協力を依頼することが可能だ。これ以外にもScout Donation Platform（詳しくは後述）も存在しており、様々な形で資金調達が可能であると言えるだろう。

元来、MoPはスカウトによってスカウトを鼓舞することを目的としており、WOSMのwebサイトでは世界中のMoPプロジェクトの様子が確認できる。また、プロジェクトの例のみならず、MoPがムーブメントとして世界規模でどれほどまでの影響を持っているのかも確認可能である。日本のスカウトもMoPプロジェクトをWOSMのサイトに登録することが望まれる。

また最後に、ILTの最終日までにチームごとのMoPプロジェクトを企画し、企画書を提出することが確認された。（詳細はトレーニング中のその他事項についてを参照）



MoPの概要は以下のページでも確認が可能である。

<https://www.scout.org/messengersofpeace>

ガイドライン：

<https://www.scout.org/sites/default/files/media-files/MoP%20Guidelines%20on%20Programme%20%26%20Network.pdf>

-12月30日- (Local Day)**・ 植樹**

キャンプサイトの一角に各チーム3本ずつ木を植えた。願い事を書いた紙も一緒に植え、木には名前をつけるなどエクアドル流のやり方を体験した。シャベルなどの道具は使わずに手で心を込めて土を被せることがポイントなのだそう。

**・ Middle of the World (Mitad del Mundo)**

首都であるキト市内にある赤道記念碑（Middle of the World: Mitad del Mundo）の観光。エクアドルやキトについて知ることと、ここまで学んだ内容をチーム内で実践し絆を深めることが目的とされた。各チームに11個のお題が書かれた紙が配布され、それに沿って行動した。例えば、地元の人に地元の踊りを教えてもらう、モニュメントの前でチーム員それぞれの写真を撮る、卵を釘のうえに立てる（赤道上だと立つらしい）などといった内容だった。

チームリーダーを中心に場内地図を見ながら、どの場所でどのお題に取り組むかといった順番を話し合った。ここで、前日までに学んだリーダーシップのとり方やチームビルディングといったポイントを実際に応用する機会となった。



・プレゼン「チームワーク」

チームビルディングのためのゲーム「マシュマロチャレンジ」を行った。このゲームではグループにパスタ、テープ、ひも、マシュマロが与えられ、グループはこれらを駆使して自立可能なタワーを立てる。そしてもっとも高いタワーを作ったチームが勝ちとなるゲームである。詳細は以下のURL先の動画から確認できる。

https://www.ted.com/talks/tom_wujec_build_a_tower?language=ja

ゲームの後、チームの発展には4つのステージがあると紹介され、自らのチームがどの段階に所属するかを考えた。

1. Forming → 未だ混沌としており、十分に組織化されていない状態

2. Storming → チーム内の差を意識するようになるも未だに不満が募るような状態

3. Norming → チームとして発展を遂げ、何かに取り組める状態

4. Performing → 全員が団結し、チームとして最大限のポテンシャルを発揮できる状態



-12月31日-

・ MoP Team Project Work Time

最終日のMoPチームプロジェクトのプレゼンのための準備時間である。

・ プレゼン「the Goblet Ecuador Trials」

ハリポッターなどの様々なキャラクターを引き合いに、リーダーシップのタイプを分析した。セッションによると、全部で6つのリーダーシップのタイプが存在する。

-リーダーシップのタイプ-

○Authoritative → 効率性を最重視するタイプ。必ずしも権威主義的という訳ではない。

○Rational → チームメンバーの能力を向上させることに関心。メンバーの面倒をよくみるタイプである。

○Democratic → メンバー全員の参画により、その都度コンセンサスを得るタイプ

○Laissez-faire → "Let it go"的な考え方のリーダー。Laissez-faireはフランス語であり、神の見えざる手として経済学でもよく登場する概念である。このタイプのリーダーは求められた時にのみ必要なモノやサポートをするタイプであるが、このリーダーはチームを前に立てることで全ての権力をチームに帰属させている。

○Coaching → チームを常に鼓舞し、チームを次のステージへとリードするタイプ

○Innovating → 既存の考え方に縛られずにチームをより良き方向に導くタイプ

・プレゼン「Emotional Intelligence」

チームメンバーにはそれぞれ異なる感情に基づいたバックグラウンドがあり、チームとして上手く機能するためにはそれらにも上手く対処しなければならない。Emotional Intelligence自体は心の知能指数と訳されており、自己や他者の感情を知覚し、また自分の感情をコントロールする知能を差し示すものである。対処法としてはEIの4つの側面（Self-Awareness、Self-Management、Social Awareness、Relationship Management)に基づいた対処法が考えられる。最終的にはチーム員に持ちうる感情をチームの発展のステージ(12/30のプレゼン「チームワーク」を参照)に結びつけて考察した。

・プレゼン「Rovers 100」

2018年でローバースカウト教育部門は100周年を迎えることのリマインドである。1918年に初めて「ローバースカウト」という名前が公式に使われるようになったそうである。各国・各コミュニティで100周年を祝い、対外的に発信する取り組みが期待されている。



・プレゼン「Bike Jamboree」

2015年の日本での世界ジャンボリーでも行われた、自転車にてジャンボリー会場に向かうプロジェクト。既に24th WSJに向けて35,000kmの道中であるとのことであった。

<https://www.facebook.com/BikeJamboree/?rc=p>



・プレゼン「ILTの歴史」

ILTの立ち上げの際から関与しているアルマンド氏によるお話を伺った。今回で5回目となるILTであるが、このようなリーダーシップトレーニングが求められる背景には、「全てがリーダーシップに始まり、リーダーシップに終わる」という歴史的事実がある。そのような背景のもと、世界各国で活躍できる良きリーダーを排出するのがILTの役目であるとのことだった。

・分科会 (Conference)

○Ethical Decision

「もし自分の尊敬する友人が犯罪者だったらあなたはどのように考える」というような問いを考える分科会。Decision Makingには三種類 (Trival、Right vs Wrong、Right vs Right)あるとされ、もっとも対処が難しいのが両者の主張が正しいRight vs Rightである。上記の問いはRight vs Rightの問いの一例であり、どのような選択をしても決して間違いではない。しかしながら道徳的に正しい決断をするためには物事を冷静に分析することが必要である。そのためには両者の主張のバックグラウンドやコスト、自分への影響などを加味した上での決断が大切であるとのことであった。

○Meeting Management

リーダーとして会議運営の際に意識すべきことについて考える分科会。目的を明確にすること、タイムマネジメントを行うこと、会議の記録をとることなど、基本事項をレクチャーやグループディスカッションを通じて学んだ。

○Biases and Effect

バイアスには4つのタイプがあり、そららの特徴を理解することが必要である。バイアス自体が一長一短であるため、重要なのはそれらにどう対処するかであるとのことだった。

-バイアスの4つのタイプ-

- ・ Bandwagon Effect → みんなが良いと言っているから良いと感じてしまうバイアス。
- ・ Anchoring Bias → 初見で瞬間的に相手を分類してしまうバイアス。
- ・ Confirmation Bias → 自らの知識や信念に依存するバイアス。これらに反するものはなかなか受け入れることができなくなってしまう。
- ・ Stereotyping → 有名なステレオタイプである。固定化された物事の見方。

・フォーラム「イントロダクション」

フォーラムの導入として概要が紹介された。フォーラムは他のセッションとは異なり、自分の所属するチーム以外のメンバーと関わる機会が設けられる。基本的には最初に全体で話を聞いた後に、チーム以外の人とグループを組んでディスカッションを行うという流れである。

・フォーラム「Governance and Leadership」

「Governance」、「Constitution」、「Structure」の三側面から各NSOのガバナンス（意思決定過程）を考察した。まとめとしては、ガバナンスは透明性を担保しており、かつ説明責任を果たすものであるべきであるとのことだった。

・フォーラム「Communication」

スカウト活動とコミュニケーション、特に媒体について議論した。各国においてNSOの内部と外部を結ぶための方法が取り上げられ、ソーシャルメディアなど用途に適した手段を選択する必要があるとまとめられた。

・ IAR Line Up

インターアメリカ地域についての概要説明。その後、参加者のプロフィール写真を見ながら、出身国と国の位置を地図上に書き表すアクティビティが行われた。



・ インターナショナルナイト

各国の参加者がそれぞれの伝統衣装を身にまとい、ブースを設けて料理などを振る舞う時間である。日本からはキットカットの抹茶味と煎餅、そして第23回世界スカウトジャンボリーの「成功させようワッペン」、日本のスカウティングの紹介パンフレット（英字）を持参して配布した。また、衣装として事前にハッピーとお面を購入し、これらを身にまわって日本文化の紹介をした。反省として、持参したお菓子が少なすぎたことが挙げられる。他の国のブースと比べても持参した食べ物が少なめであった。



1月1日-

・分科会 (Conference)

○Setting the Example

我々は日常から無意識のうちに様々な”例”に従って生活している。子供が大人の真似をして育つこともこれに当てはまる。従って、スカウトとして常に良き模範となることが求められるという内容のセッションであった。

○Feedback

どのようなフィードバックが効果的かを考える分科会。

○Individual vs Team Decision

個人による決断とチームの意思決定における対立を、どのように解消するかについて考える分科会。「雪山で生き延びるために必要な5つのアイテム」という題のアクティビティで、まずは個人で12個の中から5つを選択した。次いで7人1組で、チームとしての選択をするため話し合いを行った。この体験を踏まえて、グループでの意思決定においてリーダーは、個人の意見によく耳を傾けること、決定事項を受け入れそれを支えることが重要な役割であるとされた。

・プレゼン「コロンビアにおけるMoPプロジェクト事例」

コロンビアのスカウトが実施したMoPプロジェクトの紹介。内戦が生じていたコロンビアにおいて、叔父が殺害された場面を目の当たりにしたスカウト自身の体験と、ボーイスカウトに出会って勇気もらったことが映像にまとめられていた。映像に込められたメッセージは非常に感動的であり、参加者からは大きな拍手が起こっていた。映像は以下のURLから確認可能である。

<https://youtu.be/rQYx5aYvSwY>

・プレゼン「Conflict Management and Resolution」

ゲーム理論的なアプローチを用いて協力の大切さを説くセッション。それぞれのチームに「協力」か「裏切り」の二択を選ばせ、3つのチームの選択の組み合わせによってそれぞれのチームが得られるポイントが異なるというゲームを行った。例えば、全てのチームが協力すれば全てのチームが100点を獲得できるが、一つのチームが裏切りを選択した場合には裏切ったチームに1000点配転される一方で、協力を選んだチームは100点マイナスとなる。結果として裏切りが続出し、“紛争”をマネジメントすることが難しいものであることが示された。しかしながら解決策としてチーム同士のコミュニケーション（チームの代表者で話し合う場を設けた）を可能にしたところ、裏切りは減少した。故に、紛争解決に効果的な一つの手法としてコミュニケーションが挙げられるとのことであった。

・ゲストスピーカープレゼンテーション

○Interamerican Scout Foundation

MoPなどの支援のために用意されている基金、Interamerican Scout Foundationの紹介があった。

○Interamerican Youth Forum

次回のInteramerican Youth Forumについての紹介があった。

・プレゼン「Multiplier Concept」

リーダーとして、チーム員それぞれがもつ長所を引き出すために必要なことについてのプレゼンテーション。自己評価やチーム開発、目的・目標の設定、チームのニーズに着目しながらチーム員の知識や能力を最大化させる存在になることが求められる。ここで強調されたのは、周囲を引っ張る姿勢のリーダーというよりは、周囲の人々の能力を増幅させるような存在になることが必要とのことだった。

・Adult Perspective「世代を超えた理解」

ILTの設立に関わったアルマンド氏によるセッション。ユース年代とそれ以降の世代では物の見方やバックグラウンドが大きく異なるため、世代を超えた対話が必要であるとの内容であった。

・フォーラム「Educational Method」

スカウト教育法の7つの要素について復習（昨年夏に第41回世界スカウト会議にて採択された8つ目のCommunity Involvementを含む）をし、自分の好きな要素などについて話し合った。

・キャンプファイア

屋内で行われ、各チームが出し物を披露した。劇やアクションソングなど、言語は共通していなくとも全員が笑い、楽しさを共有できる時間だった。千田が所属したRed Teamでは「幸せなら手をたたこう」の歌を英語や日本語、スペイン語、パピアメント語といったチーム員の母国語で披露し、それぞれの言語や文化は違えどボーイスカウトを通して結びついているというメッセージを込めた。



-1月2日-

・ **プレゼン「Values of Scouting」**

スカウトのちかいとおきてについての理解を深めるセッション。WOSMの定めているちかいとおきて及び各国のちかいとおきてを紹介し、意見交換を経た上でお気に入りのちかい・おきてについて話し合うという時間だった。

・ **写真撮影**

最終日に全体での写真撮影の時間が設けられた。ほぼフリータイムと化しており、全体での写真撮影終了後はチームごとに写真を撮ったり、各々が仲良くなった他の参加者と写真を撮る時間となっていた。

・ **プレゼン「Diversity and Inclusion」**

導入としてチームごとに食材を発揮し、最大限クリエイティブな料理（サンドイッチのような簡易的なもの）を作るゲームを行った。最初はチーム内で完結したゲームだったが、最終的にはチームの垣根を超えて全体で協力して一つの料理を作り上げるというルールに切り替わり、参加者全員で一つの料理を完成させた。その後、このゲームの背景にあった Diversity and Inclusion という概念が紹介され、多様性であることとそれを受け入れることの重要性が説かれた。



・ **MoPチームプロジェクトのプレゼンテーション**

期間中を通じてチームごとに内容を深めていたMoPチームプロジェクト最終段階である。全てのチームが5分ほどのプレゼンテーションを行い、各々のプロジェクトを紹介した。一例として、木村と千田のチームプロジェクトの概要を記載する。

-Winter Clothes 4 Today- (木村、ブルーチーム)

チームメンバーのFelippeの出身地であるブラジル南部では冬になると多くのホームレスが凍死してしまうそうだ。この問題を解決するため、世界各国からコートなどの寄付を募り、ホームレスの人々に冬を乗り切るための服を届けるプロジェクト。当初はブラジル南部の地域に限定していたものの、最終的には同じような問題を抱える他の地域も対象となった。チームとしてこの問題の重要性を説くため、SNSを駆使して情報発信をすることも重要な戦略として位置づけられた。

Team Color: Blue Team

Messenger of Peace Project Proposal Form
(To be submitted prior to Closing Ceremony)

Your project will be posted on your ILT's session's Facebook page. Please keep us updated with your progress with pictures and comments.

In six months (around June), you will be contacted by the ILT Administrative Team asking for a progress report. How would you prefer to be contacted? Please pick **one** person to be your primary contact for the team.

Primary contact for team: _____
 Cell phone: _____
 Email address: _____
 Physical Address: _____
 Other contact information: _____

Project Title: Winter Clothes 4 today
 Vision: "Involving the Community in the help of people in need by sharing 1000 pieces of winter clothing and also creating a greater awareness about the issue"
 How will you execute this? Winter clothing will be given away at different donation points for those in need
 What additional help is needed? We need the help of the community, friends, family, scouts etc. to help donate the pieces of clothing
 What approvals are needed? permission are needed from local city council
 Will you need funds? If so, how will you get the money needed? Yes! We plan of fundraising, asking help from NSO, Make a wish, and also scout donation platform.

-WATTS WATER?-(千田、レッドチーム)

家庭において、電気をこまめに消したり、未使用時はシャワーの水を止めたりするなどといった取り組みを通して、電気や水の消費量を知るというプロジェクト。エネルギー消費に関して人々の意識向上を目的としている。どのチーム員の国でも取り組めるように環境と関連させ、各国の課題や背景に基づいて個々に内容を発展させられるようにした。SNSやビデオの作成、学校訪問によって情報発信と実践の促進を行う戦略を掲げた。

Team Color: Red Team

Messenger of Peace Project Proposal Form

(To be submitted prior to Closing Ceremony)

Your project will be posted on your ILT's session's Facebook page. Please keep us updated with your progress with pictures and comments.

In six months (around June), you will be contacted by the ILT Administrative Team asking for a progress report. How would you prefer to be contacted? Please pick **one** person to be your primary contact for the team.

Primary contact for team: [Redacted]

Cell phone: [Redacted]

Email address: [Redacted]

Physical Address: [Redacted]

Other contact information: _____

Project Title: Watt's water?

Vision: Raising awareness in our communities through amounts of water consumption/energy consumption, we can impact the small use of usage and help create access to all.

How will you execute this? We will use posters and social media to express and spread our project, make a local day promotion, go to local schools and make an informative video about our project.

What additional help is needed? Financial help and help from the broadcasting media such as TV and radio, also local support is needed,

What approvals are needed? NSOs approvals / district approval / public approval

Will you need funds? If so, how will you get the money needed? Yes, we will apply for MoP grant, business, NSOs. We will use it to make flyers and folders.

・プレゼン「Scout Donation Platform」

2017年夏に設けられたスカウトによるスカウトのためのクラウドファンディングである。導入の背景にはMoPプロジェクトのうち1%しか資金の支援を受けていない事実があり、2017年夏の世界スカウト会議でも画期的サービスとして注目を浴びていた。他の一般的なサイトとは異なり、手数料は全くの0円という魅力がある。登録申請のためには各NSOによるプロジェクトの承認が必要である。2018年1月の時点で19のプロジェクトが登録されており、プロジェクトに多額の支援金が投じられている。MoPプロジェクトを行う際にはこのプラットフォームが大いに役立つであろう。

<https://donate.scout.org>

動画：<https://www.youtube.com/watch?v=4hNgil3lzuk>

・フォーラム「Youth Involvement」

ユースの意思決定過程への参画について、各NSOの事情なども考慮した上でのディスカッションを行った。「Youth Programme」、「Youth Advisors」、「Youth Forum」の三側面から分析を経た上での討議を行い、考察を深めた。

・コースサマリー

まとめとして、期間中に我々がどのようなことを学んできたのかを振り返った。導入として今までに学んだトピックとその日にちを結びつけるゲームを最初に行い、そのあとに大まかな振り返りを行った。

・感謝状授与式

各国の参加者がインターアメリカ地域やエクアドル連盟、そして運営に携わっていたRicardoなどに感謝の品を贈る時間。日本からは感謝状をインターアメリカ地域のアルマンド氏に、エクアドル連盟のダニエル氏にお贈りした。

4.3 トレーニング中のその他の事項について

・トレーニング中の演出テーマ「ハリーポッター」

今回のILTでは期間を通じて「ハリーポッター」という演出テーマの下でプログラムが展開されていた。というのも、リーダーに必要とされるlistening（傾聴）・empathy（共感）・persuasion（説得）・growth（成長）・community（同一性）が、ハリーポッターの作中から感じ取れるからである。特に特徴的なのは組分け帽子で、チームアドバイザーの組分けや毎日のサービスチームの任命などは組分け帽子を使った演出を加えた上でアナウンスをしていた。また、魔法の杖が登場したり、ハリーポッター風に扮したりなど、至る所でテーマを意識していることが感じられた。しかしながら、時にはハリーポッターシリーズをよく知っているような参加者でないと楽しめないようなネタもあったのも事実である。



- ・チームリーダー

毎日持ち回りでチームから1名のリーダーが選出された。チーム会議の運営やチームリーダー会議の出席、チーム員の体調管理やスケジュールの指示などの役割が課せられた。

- ・プログラムチーム

毎朝の朝礼で指名され、その日のレクリエーションを担当した。休憩時間にダンスやアクションソングを披露し、特にキャンプファイアではすべての進行を任せられた。



- ・サービスチーム

プログラムチーム同様に朝礼で指名された。主に、食後に食器を片づけたりテーブルを整えたりするなどを担当した。

- ・チームアドバイザー

各チームに過去ILT参加者がアドバイザーとして配置された。リーダーに助言を与えたり、チーム会議がうまく進むよう方向性を示したりと、初対面かつ様々な背景をもつチーム員を束ねる重要な存在だった。

- ・MoPチームプロジェクト

ILTがMoPと深くかかわっていることから、チームごとにMoPプロジェクトを計画し、実践にむけた話し合いを重ねた。チーム員は全員出身国が異なることから、それぞれの国が抱える課題も多様であるが、チームで一つのプロジェクトを完成させるために、これまで学んだリーダーシップスキルを活用しながら議論した。最終日には各チームで全体へのプレゼンテーションを行った。



5. 帰国後の動きについて

5.1 派遣団の目的・目標に対する評価

我々が事前に掲げていた目的・目標に対する事後評価である。

-目的-

リーダーシップとMoPについての理解を深める。

[評価]

・リーダーシップの理解が深まったかと問われると、回答に窮するのが正直なところである。ILTは確かにリーダーシップを主軸としてプログラムを展開するものであったが、そのセッション内容はどちらかといえば派生的なものが多い印象である。また、扱っているトピックそれ自体のレベルの問題もあり、リーダーシップに関する理解が飛躍的な深まったかについては疑問を呈さざるを得ない。

・一方でMessengers of Peaceのプログラム展開に関しては非常に理解が深まった。同プログラムは日本ではあまり馴染まれていないものであり、名前だけは知っていてもその実態についての知見を有する者は限られている。ILTにおいてはMoPの概観を得るのみならず、実際にチームでMoPプロジェクトを企画することによってMoPへの理解を深めることができた。

-目標-

1.リーダーシップトレーニングのような事業を日本のローバー対象に行う必要性を検討する。

[評価]

我々が見聞した限りでは、インターアメリカン中心にほとんどのNSOでは自国内でリーダーシップトレーニングコースを設置しているようだ。日本ではローバー年代を対象としたリーダーシップトレーニングが無いという話をすると、どうやってスカウト教育が成り立っているのかと驚かれるほど日本は例外的な国らしい。しかしながらILTのようなものを日本でも導入すべきかであるかについての答えは”否”だろう。リーダーシップトレーニングの意義自体は大いに認められるべきであるが、ILTで扱っていたトピックは日本人にとっては常識であるような内容をも含有しており、日本でトレーニングを行うのであればその意義を明確にした上でトピックを熟慮する必要がある。しかしながらリーダーシップの専門的な内容（Servant Leadership, Leadership in Scouting）のようなものを取り扱うのであれば、トレーニング導入の意義は大きいのではなかろうか。RCJの事業としてローバーが自発的にこのようなトレーニングを実現することも選択肢の一つと考える。

2.日本におけるMoP周知および浸透のための方策を検討する。

[評価]

日本におけるMoPの喫緊の課題は、第一にMoPというプログラムの性質が誤解されていること、そして第二に言語の壁ではなからうか。

Messengers of Peaceは名称に"Peace"が含まれるが故、紛争等に関連した平和維持活動のようなプログラムであると誤解される場合が多々ある。しかしながらここでのPeaceはより広範な意味であり、どちらかといえば日々の善行やCreating a Better Worldに関連してのPeaceである。困った人がいれば助ける、これでも十分にPeaceは成立するのだ。すなわち、我々が日々のスカウト活動で展開している奉仕活動は全てMessengers of Peaceに適応するプログラムだと言えよう。

第二に、MoPはWOSM（世界スカウト機構）が中心となって推進をしているグローバルプログラムであり、基本的に英語での情報交換が行われている。世界中でどのような奉仕活動が展開されているかをホームページ上で可視化することにより、スカウト運動全体としてのインパクトを感じてお互いをさらなる奉仕活動のために鼓舞し合うというのがMoPの一つの要素であると考えが、このホームページ上で可視化は全て英語で行われている。一般に英語を苦手としている日本人にとっては、WOSMのホームページ上でMoPのページを発見することすら困難であり、それだけで厭ってしまうかもしれない。また、日本ではMoPのプログラム例があまり認知されていないため、実際に日本でMoPとしての活動の例を示すことによってMoPに対する理解を深めてもらう手段も考えうる。

5.2 派遣団としての評価・反省一般

・ インターナショナルナイトの準備

大晦日のプログラムであったインターナショナルナイトには、ハッピーとお面、お菓子を2袋持参した。しかしながら若干お菓子が少なかったのではないかなど、全体的に準備不足であったと感じられた。パフォーマンスを用意している国も多かったため、日本も何か準備していけばよかったかもしれない。

5.3 派遣員所感

木村 直登

幾たびかこの手の国際事業（フォーラムなど）に参加させて頂いた身である私であるが、その中でも特に今回のInteramerican Leadership Trainingが雰囲気の良い環境であったと振り返る。ILTの大きな特徴の一つとして、期間中の居場所が所属チームに制約される割合が高いことが挙げられる。この制度は一長一短であるようにも思われる。原則チーム単位での行動となるため、チームの仲間との親睦を非常に深められる一方で、チームに馴染めなかった場合にはプログラム期間中世知辛い日々を送ることになる。後者のような問題は国際事業ではよく発生するものではなかろうか。かつての私にも世界スカウトユースフォーラムでチームに馴染めず、ディスカッションにも上手く加われなかった苦い経験がある。やはり日本人は他の国と比較すると群を抜いて英語を喋れないのだろうと痛感する次第だ。しかしILTはその手の国際イベントとは雰囲気が異なっていたように感じた。その背景にはILTのもう一つの大きな特徴である、全員がリーダーであることが求められている、というようなことの影響も考えられよう。リーダーシップと一言で表してもその内実は多種多様である。ILTではチームのリーダーを一日ごとに交代させるなど、参加者それぞれがリーダーシップを発揮できるようにプログラムがデザインされていたため、各々がリーダーとしてリスペクトしあえる環境が生成されていたと考える。そのような事情もあり、期間を通じて非常にアットホームな雰囲気が漂っており、快適な環境で過ごすことができた。

ただし、プログラム内容に目を向けると、必ずしも満足のいくようなものでなかったのも事実である。ILTではリーダーシップを主軸に据え、副次的な要素についても学びを深めていく。それに伴いリーダーシップ自体の知識に関して言えば、然程詳しい内容まで踏み込めていない印象を受けた。例えば世界スカウトユースフォーラムなどで取り上げられているようなLeadership in Scoutingを図示したものの紹介はなく、WOSMとinteramerican地域のギャップを感じた場面もあった。総評として、リーダーシップ自体に関する知識が深まったかと問われれば疑問を呈さざるを得ないのが正直なところである。しかしながらインスパイアという意味ではILTには非常に価値があったと感ぜられる。元来ILTは参加者が主体となり能動的にリーダーシップを学ぶというプログラムである。そのような環境では座学だけではなく実践が伴うため、リーダーシップを実践する場としては非常に適している環境だったのかもしれない。事実、私自身ILTのようなイベントでは公衆の面前での発言・発表を避けて脇役に徹する傾向があったのだが、ILTでは全員にリーダーシップが求められるために、私自身がリーダーとしてチームを牽引するような（せざるを得ないような）機会も幾たびかあった。したがって私にとってILTは知識を深めるような場所としてというよりも、リーダーシップの実践の場として非常に価値があるものであった。

このILT期間中、最も印象に残った言葉がある。アルマンド氏の「全てはリーダーシップに始まり、リーダーシップに終わる」という言葉である。すなわち、リーダーシップには物事を動かす力があるが、リーダーシップ次第では物事は台無しになってしまうということであろう。それ程までの影響力を有するリーダーシップであるからこそ、学びを深める必要があるのではなかろうか。私はILTでインスパイアされた結果、現在はservant leadershipやU理論のようなリーダーシップ論および組織論に興味を抱いている。今後はILTでの経験を糧として、リーダーシップへの理論的側面への学びを深めると共に、リーダーシップを発揮できるよう、実践面での挑戦もしていきたいと考えている。これにはローバースカウト活動のみならず、社会におけるリーダーシップも考えられる。今後の社会の担い手である若者とし

て、日本社会に貢献できるようなリーダーシップを発揮できるよう、日々鍛錬をしていきたい。

最後に、元世界スカウト委員中野まりさんや日本連盟事務局ジェシーさんを始めとする、今回の派遣でお世話になった多くの方々にこの場をお借りして衷心より御礼申し上げます。ありがとうございました。今後はリーダーシップの実践と、今回の派遣で得た知見などの還元を精力的に取り組んで参ります。

千田 恵

今回のILTは、私にとって初めて参加するローバー年代の国際事業であった。特徴として、講義形式ではなく、参加者が主体となって議論する形式と事前に聞いていたことから、自分の語学力やボーイスカウトに関する知識に不安があった。しかし、今年度RCJ運営委員として日本のスカウティングの現状や課題などを知り、自分なりにも考えてきた経験を活かして、参加者との議論に積極的に加わることを目標としていた。期間中、他国の参加者に引けを取らないよう常に気を引き締め必死であったが、それでもまだ伝えられることや深く学ぶべきことがあったのではないかと振り返って感じている。

WOSMやリーダーシップに関して、もちろん初めて知ることも多かった。しかしそれ以上に、ILTの重要な要素の一つであるMoPについて理解が深まったことも、大きな成果だった。そもそも私自身、MoPという存在自体を知ってはいなかったものの、日本で実施されている具体的な事例までは認識していなかった。本派遣を通して、前述の派遣団の目標・目的に対する評価にもあるように、日本では”Messengers of Peace”というプログラムの性質のとらえ方に誤解があると気づかされた。プロジェクトを考案する際にはその名称から”Peace”の部分が重視され、とらわれてしまうが、実際は”Messengers”という点が重視されるべきであり、それには、実施する者がプロジェクトを通じて何かを伝達することが求められるのである。そう考えると、「日々の善行」と関わるような募金や清掃活動など、すでに広く実施されている奉仕活動から、例えば震災の記憶を後世に伝えるためのプロジェクトなど、日本でもMoPとして成立・実施しうる活動は多いはずである。今後、日本でもMoPが浸透することを期待するとともに、自分でも考慮しながら活動を進めてみたい。

本プログラムの内容は非常に興味深いものばかりであったが、その中身に加えて参加者との交流を通して特に印象的だったことが二つある。まず一つは、ILTのプログラム自体をユース世代が引っ張っているということである。運営やプレゼンテーション、チームアドバイザーなどは過去の参加者によって分担されており、それを担っているスカウトたちにとっては過去のILTで学んだリーダーシップを発揮する場面となっているようだった。確かに日本でもローバー事業がローバー年代によって主体的に企画・運営されるといった動きはあるが、ILTで学んだ内容を自国でも応用したり、再度立場を変えて参画したりするなど、地域という大きな枠組みで展開される事業であるからこそそのインパクトを感じた。加えて、参加者のほとんどは各NSOの多数の希望者の中から選ばれたスカウトであることを知り、特にインターアメリカ地域において本プログラムは権威のあるものだという事も実感した。

もう一つは、スカウティングと各国・地域の背景との関わりといった多様性である。インターアメリカ地域は、日本やアジアとは文化・社会的にも異なる点が多いと感じられるが、そのような背景を持つスカウトとの交流により、さらに多様性と相互理解への関心が深まった。また、期間中に設けられたアジア・太平洋地域（APR）からの参加者・スタッフによる

ミーティングでは、ILTのような内容をどのようにAPRへ応用できるかなどが話し合われた。近年WOSMIに加盟したばかりのNSOや、すでに学校規模で活動が行われているNSOなど様々な背景が存在するAPRにおいて、今回参加の3か国（日本、オーストラリア、ニュージーランド）は地域を牽引する重要な役割を担うことが期待されるはずである。

最後になりましたが、本派遣では多くの方々にご支援いただきました。皆様のおかげで、様々なことを学び、充実した派遣とすることができました。感謝申し上げます。ありがとうございました。

6. 総括

6.1 おわりに

Interamerican Leadership Trainingは今回で5回目の開催であったが、日本から参加者が派遣されたのは今回が初めてであった。日本連盟として初めての対応であり、更には事前の情報が少なかったが故に苦勞する場面も多々あった。もし次回のILTにも日本から参加者が派遣されるのであれば、そのような情報不足に悩まされないことを切に願う。そのような願いの元、この報告書には可能な限り詳細にプログラム内容等を記した。当報告書が次期派遣団の一助となれば嬉しい限りである。

最後に、派遣に際してお世話になった派遣員の団・地区・県連盟の方々、元世界スカウト委員中野まりさん、そして日本連盟事務局員の皆様に改めて深く御礼申し上げます。ありがとうございました。



6.2 記録写真



6.3 参考

公式ウェブサイト「INTERAMERICAN LEADERSHIP TRAINING」

www.iltx.org/

Facebookページ「Interamerican Leadership Training」

<https://www.facebook.com/IAR.LeadershipTraining/>

WOSMウェブサイト「MoP Project-Fifth Interamerican Leadership Training (ILT-5)」

<https://www.scout.org/node/409076>

「メッセンジャーズ・オブ・ピース」 of 公益財団法人ボーイスカウト

https://www.scout.or.jp/for_members/program/messengers_of_peace/

「メッセンジャーズ・オブ・ピース/ガイドライン」

https://www.scout.or.jp/_src/11023/mop_map.pdf



公益財団法人 ボーイスカウト日本連盟

住所 〒 113-8517 東京都文京区本郷1-34-3 電話 03-5805-2561 (代表)

ファクシミリ 03-5805-2901 (代表)

URL <http://www.scout.or.jp/> 2018年2月発行